

## 施策 25

## 総合的な交通環境の整備

## 目的

対象 市民，市内公共交通機関の利用者  
 意図 安全，快適，円滑に目的地まで移動できる

 施策の方向

将来の交通需要や都市基盤の整備と合わせた効率的な公共交通ネットワークを形成するとともに，交通安全対策の推進，環境への負荷の少ない自転車利用の促進などを通じて，だれもが安心して移動できる総合的な交通環境が整ったまちづくりを進めます。

 施策のポイント

都市基盤の整備状況を踏まえた各種計画の見直し（総合交通計画，バリアフリー基本構想など）  
 自転車等駐車場の恒久的な整備と有料化の計画的な推進  
 シェアサイクル導入や自転車走行空間の整備などによる安全・快適な自転車利用の促進  
 市民の交通安全意識と交通マナーの向上

## 基本的取組の体系

## 施策 25 総合的な交通環境の整備

基本計画事業

## 25-1 公共交通ネットワークの形成

交通計画等の検討

p.197

## 25-2 交通安全対策の推進

## 25-3 自転車利用の促進

★ 自転車等駐車場の整備・有料化

p.199

★重点プロジェクト4

 現状と課題

市内の公共交通ネットワークは，市域を東西方向に結ぶ京王線と，鉄道駅から南北方向に連絡しているバス路線等で構成されており，調布駅へ接続する路線が多いことが特徴となっています。

電車やバスなどの公共交通を利用することが不便な地域への対応や，人口の増加や高齢化の進行などに対応した交通基盤の確立を図るため，調布市ミニバス（コミュニティバス）3路線を運行し，地域住民の身近な交通手段として，多くの人々に利用されていますが，平成28（2016）年3月に策定した調布市公共交通ネットワーク整備の方向性に基づき，更なる利便性の向上を図っていく必要があります。



調布市ミニバス

放置自転車は，歩行者等の通行の妨げとなるだけでなく，緊急車両等のスムーズな走行を阻害することから，自転車等駐車場の計画的な整備や放置自転車対策が必要です。また，歩行者と自転車が安全に通行できる交通環境の向上を図るためには，市民一人一人の交通安全意識や交通マナーの向上を図っていく必要があります。

市内の交通事故件数は減少傾向にあるものの、自転車の関与率は依然として高い状況です。市内は幅員が狭い道路であっても交通量が多く、自転車利用者の交通違反行為の有無に関わらず事故にあうケースがあります。

ラグビーワールドカップ2019™日本大会、東京2020大会の開催に伴い、国内外から多くの来訪者が予想されるため、東京都と連携し、競技会場となる東京スタジアム周辺の更なるバリアフリー対応などが求められています。

## 基本的取組の内容

### 25-1 公共交通ネットワークの形成

#### 交通結節機能の向上

駅前広場の整備により、ユニバーサルデザインに配慮した交通結節機能の強化を図るとともに、バリアフリー化の推進やバス待ち環境の改善など、公共交通の利用環境の向上を図ります。

#### ミニバスの運行

ミニバスの運行により、公共交通不便地域への対応と高齢者等の社会参加の促進を図るため、更なる利便性の向上に向けた検討を進めます。

#### 公共交通網の整備による交通環境の向上

今後の交通需要や都市基盤の整備と合わせた効率的な公共交通ネットワークの検討を進め、だれもが利用しやすい交通環境の向上を目指します。

### まちづくり指標

指標名	基準値	目標値
市内の公共交通機関(電車・バス)を利用しやすいと感じている市民の割合	76.3% (平成30(2018)年度)	77.0% (令和4(2022)年度)

### 基本計画事業

84		区分	継続	担当課	交通対策課
事業名	交通計画等の検討				
事業の概要	調布市総合交通計画に基づき、今後の交通需要や都市基盤の整備と合わせた効率的な公共交通ネットワークや公共交通の利用環境の向上に向けた検討を進めます。また、総合交通計画の見直しを進めるとともに、次期バリアフリー基本構想を策定し、各種バリアフリーの取組を推進します。				
年度別計画	令和元(2019)年度	令和2(2020)年度	令和3(2021)年度	令和4(2022)年度	
	総合交通計画の進行管理 バリアフリー特定事業計画の進行管理 自転車利用促進に向けた取組 ・自転車走行環境の整備検討 ・シェアサイクルの活用	総合交通計画の見直し バリアフリー基本構想の見直し検討 自転車利用促進に向けた取組 ・自転車走行環境の整備(ナビマーク等の設計) ・継続	総合交通計画の見直し バリアフリー基本構想の策定 継続 ・自転車走行環境の整備(関係機関協議) ・継続	総合交通計画の進行管理 バリアフリー特定事業計画の策定 継続 ・自転車走行環境の整備(ナビマーク整備) ・継続	
事業費(百万円)	3	39	33	37	

## 25-2

## 交通安全対策の推進

## 交通安全意識と交通マナーの向上

子どもや高齢者、自転車利用者等を中心に、子ども交通教室、スタントマンを活用した自転車交通安全教室、市報などを通じて、交通安全に対する意識啓発を行うとともに、警察などの関係機関と連携した交通安全対策や市民等との協働により、交通ルールの遵守と交通マナーの向上を図ります。

## 道路交通の安全確保

歩道空間の確保、道路照明やガードレール、カーブミラーの設置など、交通安全施設の整備を進めるとともに、歩道の段差解消など高齢者や障害者等にも配慮した施設整備を行うことにより、だれもが安心して通行できる交通環境を確保します。



子ども交通教室



体験型交通安全教室

## まちづくり指標

指標名	基準値	目標値
市内における交通人身事故件数（暦年）	386件 （平成30（2018）年）	370件 （令和4（2022）年）

## その他の主な事業

- ・交通安全意識の啓発

## 25-3

## 自転車利用の促進

## 自転車等駐車場の整備

調布市自転車等対策実施計画に基づき、恒久的な自転車等駐車場の計画的整備と適切な維持管理を推進するとともに有料化を進め、民間事業者にも設置の働きかけを行います。

## 放置自転車対策の推進

歩行者の安全な通行を妨げ、都市景観の悪化や災害時等の緊急活動を阻害する要因となっている放置自転車の解消に向け、自転車利用時の駐輪マナーの啓発を行うとともに、放置自転車の撤去を進め、駅前広場や駅周辺の歩行空間・交通安全の確保と美観の向上を図ります。

## 自転車走行環境の整備

調布市自転車ネットワーク計画に基づき、自転車専用通行帯や自転車ナビマークの表示により、安全・快適に利用できる自転車走行環境の改善に取り組みます。



自転車ナビマークの路面標示

## シェアサイクルの促進

市民や来訪者の手軽な交通手段の確保策として、近隣自治体や民間事業者、商店会等と連携・協働したシェアサイクルの促進を図ります。

## まちづくり指標

指標名	基準値	目標値
自転車等駐車場の有料化整備率	85.4% (平成29(2017)年度)	92.3% (令和4(2022)年度)

## 基本計画事業

85		重点4			
事業名	自転車等駐車場の整備・有料化	区分	継続	担当課	交通対策課
事業の概要	調布市自転車等対策実施計画に基づき、各駅周辺の需要を満たす恒久的な自転車等駐車場の整備・有料化を進めます。				
年度別計画	令和元(2019)年度	令和2(2020)年度	令和3(2021)年度	令和4(2022)年度	
	自転車等駐車場の整備・有料化 ・つつじヶ丘駅周辺整備 ・機械管理の導入(京王多摩川駅・飛田給駅)	自転車等駐車場の整備・有料化 ・つつじヶ丘駅周辺			
	現況調査を踏まえた調布駅等各駅周辺の自転車等駐車場整備計画の検討 シェアサイクルの活用(再掲)	検討結果を踏まえた取組の検討 継続	継続 継続	継続 継続	
事業費 (百万円)	240	138	43	48	

## 参加と協働の視点

## ～市民等に期待される役割～

- 市民は、公共交通機関を利用するよう努めるとともに、交通ルールと交通マナーを守り、交通安全に努めます。また、自転車を利用する際は、路上等に放置せず、駐輪場に停めるよう努めます。
- 事業者は、市との連携・協力のもと、より質の高い公共交通サービスの提供に努めます。

## 多様な主体との連携事例

## ○ スタントマンを活用した自転車交通安全教室

スタントマンが交通事故を再現することにより、参加者に交通事故の怖さを知ってもらい、交通ルールやマナーの向上を図ることを目的として、自転車交通安全教室を実施しています。

市内公立中学校を対象に在学中に1回受講できるように開催するとともに、一般向けにも開催しています。

【所管課】交通対策課

【協働のパートナー】調布警察署



<自転車交通安全教室の様子>